

2-13 講演会を企画するには？

天文や宇宙について関心を持つ人は多く、天文講演会のような座学からスタートして、関連する本を読み始めたい、ちょっと難しい連続講座の受講にもチャレンジしたい、といった人がシニア層を中心に見られます。そういった要望に応えるために、次のような点をふまえて天文講演会を企画してみましょう。

ステップ1 講演会のテーマを決める

想定される聴講者の年齢や興味関心、その時々で話題になっているできごと、近々起こる天文現象などといった情報を元に、講演会のテーマを決めましょう。いわば「マーケティングリサーチ」に近いものです。たとえば2009年内であれば、日食という天文現象の解説、それに関連して現代天文学が明かした太陽の姿、といったテーマが考えられます。また、ガリレオという人物にスポットを当てた内容にしたり、望遠鏡や観測技術の発展、といったテーマも、2009年の企画ならではのでしょう。宇宙はどうやってできたか、地球のような惑星はほかにあるのか、なども根強い人気のテーマです。

ステップ2 日程の決定と会場の確保

開催日程は、想定される参加者層で適する日程が異なります。多くの人に参加しやすい休日・祝日に設定されることが多いようですが、主婦層が対象なら平日の昼間のほうが、働く人や学生が対象なら会社帰りや学校帰りの時間帯のほうがよい、等条件はさまざまです。また、日が特定された天文現象をテーマとして扱う場合は、開催のタイミングに注意が必要です。

開催会場については、

1. すでに会場が固定されている場合（企画者が勤務する施設や地域の生涯学習施設、学校など主催者が会場を持っている場合）
2. 貸し会場を確保する場合

の2パターンが考えられます。1.の場合、その会場の定員がすでに確定している状態ですが、2.の場合、テーマにより想定される参加者数（定員）と開催日程を念頭に会場の予約を開始します。

市区町村など公的機関で提供する会場（公会堂、市民文化センター、ホールなど）の場合、使用予約を半年前から受け付けている場合が多いので、早めに空き状況を確認した上で会場を押さえて

ください。その際、利用できる設備（マイク、プロジェクタ、照明など）の確認、会場の事前下見の可否、使用料の支払いのタイミングについての確認も必要です。科学館や博物館でも貸し会場の対応をしている場合もあるので、近隣施設をチェックしておきましょう。

ステップ3 講師を捜す、依頼する

1で決定したテーマに従い講師を依頼します。天文学者に依頼する場合もそうでない場合も、通常はお話をするのにも得意な分野がありますから、誰に依頼するか（お願いできそうか）事前リサーチが必要です。日本天文学会の「講師派遣プロジェクト」では講演会を引き受けてくれる天文学者が自分の情報を登録しています。講演可能な天文学の分野や派遣可能な地域などの情報が公開されていますので、依頼のための基礎情報となるでしょう。

具体的に依頼先が決まれば、ご本人に依頼をし内諾をとりつけます。所属長宛の依頼状が必要か否か、講師謝礼や交通費の支払いについての相談も予めしておきましょう。

場合によっては心当たりの講師を確保した上で講演テーマを決めることもあり、ケースバイケースです。

日本天文学会 講師派遣プロジェクト

http://www.asj.or.jp/kyoiku/koushi_haken/

ステップ4 共催、後援、協力等の確定と依頼

共催者や後援者を設定する場合があります。会場を提供する側が共催や後援に含めることを条件としていたり、開催地の学校へ講演会の広報をする場合に当該地域の教育委員会の後援をとりつける必要があったり、といったケースが考えられます。これも会場の確保とほぼ同時進行で準備を進めましょう。講師を依頼する研究所や大学、講演会で使用する資料の提供元なども後援先や協力先として含めると、開催までの準備がスムーズに運べる場合もあります。依頼文書が必要な場合が多いので、依頼にあたって決まった様式があるか、いつ頃文書を出す必要があるか、依頼先に確認をしましょう。

ステップ5 参加者を募集する

講演会の参加者の募集計画を立てます。事前申し込み制とするか、申し込みなしで当日直接来場してもらうか、その場合も整理券を発行するかどうかなどを考えておく必要があります。見込まれ

る参加者数は設定するテーマの話題性や、会場の立地にも左右されます。もちろん、注目されるテーマでもその広報のやり方いかんで集客に差がでます。

事前申し込み制とする場合は、申し込みの締め切りや申し込み方法について確定しましょう。以前ははがきでの応募方法をとることが多かったようですが、最近ではインターネットを通じた申し込み方法をとることが多くなってきているようです。

募集計画を確定したら、いろんなメディアを利用したり開催者側でウェブページを通じた情報発信をするなど、講演会の案内と参加者募集の広報を開始しましょう。

学校の授業の一環として講演会を開催する場合など、参加対象が予め決まっていれば一般募集の必要がない場合はこの限りではありません。

ステップ6 当日へ向けて一講師との打ち合わせ

講演テーマや講演概要については講師依頼時に仮決定しているはずですが、講演タイトルや講演時間、簡単な流れや使用する機材・設備の確認をしましょう。当日の講師の交通手段、会場入りの時間や、控室の案内、直前打ち合わせやリハーサルの有無も、忘れずに伝えるようにしましょう。講師と事前に確認すべき事項のチェックシートを用意するのが理想的でしょう。講演会終了後に慰労会を予定している場合などは、その旨を予め伝えておくのがよいでしょう。

ステップ7 当日へ向けて一会場のスタッフ配置と役割分担

講演会当日へ向けて、会場内および入場前の整列等に必要なスタッフ配置を考えます。特に、貸し会場を利用する比較的大きな規模の講演会（数百人規模）の場合はなるべく事前に下見を済ませ、スタッフ配置のシミュレーションができるようにしましょう。講演会場だけでなく、トイレの場所や非常口・避難経路のチェックも忘れずに。会場で簡単なリハーサルが行えればベストです。会場内に配置するスタッフ以外にも、記録写真や記録ビデオの担当者を見込むことも忘れないようにしましょう。

講演会の進行表（タイムラインを明記）とそれに沿ったスタッフの配置と役割分担表を事前にまとめておくことをお勧めします。会場によっては、照明や音声担当者がスムーズに作業を行えるよう、予め進行表の提出を求められる場合もあります。

準備万端整えたら、あとは来場の皆さんに満足していただけるよう、当日は誠意ある対応とスマイルをお忘れなく。

地域の天文学者を招こう

地域の天文学者に講演をお願いするというのはいかがでしょうか。

地域の天文学者を招いて講演会などを開催したい、という場合には、「地域にゆかりのある（出身の）人を見つけたい」という場合と、「地域的に近いところに在住・在勤する人を見つけたい」という2通りあるのではないかと思います。

前者の場合は、地域の科学館など天文関連施設に問い合わせて手がかりを求めてみるとよいでしょう。後者の場合は、少し遠くの方でもまずは連絡をとり、事情を伝えてください。研究者にとって、市民と接点をもつことは貴重な機会ですので、熱意が伝われば金銭的なことなど度外視して応えてくれるか、あるいは別のよい提案をしてくれることでしょう。

地域の天文学者として、「地域的に近い天文学者」を知るのに、もっとも充実した情報として、愛知教育大学沢研究室が2005年にまとめた「宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学」ホームページをご覧になるとよいでしょう（データは随時更新されています）。

宇宙を学べる大学・天文学者のいる大学

<http://phyas.aichi-edu.ac.jp/~sawa/2005.html>

理学部がないなど、天文に直接関係ないと思う大学でも、天文学者のいる大学は多くあります。地域の大学の研究室に打診してみるとよいでしょう。研究室には助教や大学院生などもいます。講演会は若手研究者にとって貴重な経験になることもあるようです。

また、地域出身の天文学者を知るには、天文学者のプロフィールを丹念に調べたり、地方紙などを調べて過去の実績などから知る方法もあります。

ただ、天文学といっても内容はいろいろです。どんな分野にどのような研究者がいるのか、なかなかわかりにくいものです。研究者の研究分野が企画の趣旨に合うかどうか、または逆にどのような企画であれば適切かなど、適宜軌道修正する必要もあるでしょう。

研究分野については、執筆している書籍や雑誌、新聞記事、天文月報などの学会誌、学会発表のタイトル、大学や研究機関のウェブサイトなどが手がかりになるでしょう。

